

また連合農家はメンバーによる自主的な会費や寄付、そしてスポンサー料で運営されている。現在の主なスポンサーは保険会社である。1985 年以降、政府からは補助金を受けていないが、申請をすればより良い農業のためには研究費を調達してもらえる。なお、この連合には農家の方全員が加入しなければならないわけではなく、現在は約 50% が加入している。Federated Farmers は農業ビジネスや小売業の長年の経験をしっかりと理解し、農家との戦略的パートナーシップが確立されていて、農家を代表するサービスプロバイダーである。



#### 【Federated Farmers メンバーの利益・福祉】

- ① 雇用契約、安全衛生情報、リース契約などを 80%割引で利用できる。
- ② 国家の政策の変化や問題について政策アドバイザーから適切な法律の助言を受けることができる。
- ③ 他の産業団体や最新の産業科学を踏まえながら新しい提案をしてもらうなどの便宜を図ってもらえる。

#### 【代表的な農業】

- ①羊      ②牛      ③乳製品      ④耕作可能な作物と穀物
- ⑤やぎ    ※粉ミルクは消化が良い    ⑥園芸

#### 【地域政府-評議会】

全国 87 の地区・地域には空気・水・土地利用についてのルールがあり、それらについては問題を役所や役場で話し合いをしながら決めていく。水質の維持は農業において最も重要な課題の 1 つである。評議会は水質につい

てのルールを策定するとともに、川の流れや美しさを保つために水路に沿って木を植えるよう奨励する。シーズンによっては火を燃やしてはならないなど認証を受けながら行う。土地ごとに地形を考えながら牧場の中に小川を作ったり、木を植えることで空気や水が浄化され環境保全に努めるとともに、メンバーは意思決定プロセスである地方と中央政府の提案を支援する。こういった環境保全活動は、メンバー以外の人々にも広がりつつある。

### 【農家の主な問題】

問題点は持続性・動物の福祉(健康)・収益性であり、もし持続可能な実践ができなくなったら彼らの生計は成り立たない。農村部に住んでいるのは人口の 14%で、ほとんどは町中に住んでいる。農家は自然と調和しながらやっていく仕事であるが、両者が理解し合い、共存できるよう努力しなければならない。また、日本同様に後継者不足が深刻である。労働力が減るため外国人の雇用を認めているが、土地だけを買って他人に農業を任せてしまうような人ではなく、自らが農業を行いたい人に後継者となってもらいたい。

### 【CPTPP】

ニュージーランド経済は海外貿易に大きく依存しており、世界最大の乳製品と羊肉の輸出者である。(輸出先はオーストラリア・日本・その他のアジア・EU・太平洋諸島など)昨年 10 月に新しい政府となり、包括的かつ前進的な環太平洋パートナーシップいわゆる新 TPP に加盟。CPTPP 参加 11 か国: オーストラリア・ブルネイ・カナダ・チリ・日本・マレーシア・メキシコ・ニュージーランド・ペルー・シンガポール・ベトナム。

※新規加盟はカナダとニュージーランドのみ。

### 【まとめ】

2017 年のニュージーランドの人口は 476 万人。世界の人口は 2050 年には 98 億人になると推定されることから、先進国は 2050 年には食料を 70%増産する必要がある。農業人口の減少、初期投資額の膨大など日本とニュージーランドの農家は後継者不足にどのように対応するかが最大の課題である。今後の労働力の低下を補うために農業体験や土地のリースを行うなど新たな取り組みをしているが、やる気のある人材の確保が必須である。いくら補助金を出したり土地を与えても本人に農業に対する熱意がなければならな

い。今回の講師であったジョン・ホッジ氏も仰っていたように動物が好きで外で働くことが好きな人、さらには人生をかけて取り組むことができる人でなくてはならない。ニュージーランドは人手不足を海外からの人材により解消しようとしているが、育成に時間がかかる。より環境に優しい農法の開発と効率的な生産、さらには食の安全を満たす農業を目指さなければならない。



(Federated Farmers のジョン・ホッジ氏と)

【1月11日(木)】

① ニュージーランド・ランゲージ・センター・オークランド校(英語教育)

文責 宇高英治

ニュージーランド・ランゲージ・センター・オークランド校(NZLC)  
(教育政策／海外語学留学)



(NZLC オークランド校のエントランスにて)

日本の語学教育、特に英語教育の現状については、政府・文部科学省  
供に今までのやり方では諸外国と比べても大きく遅れている。これに対応す  
べく、2002年に「英語が使える日本人を育成するための戦略構想」が打ち出  
された。具体的目標としては、中学卒業で英検3級程度(挨拶や対応などの  
平易な会話)、高校卒業までに準2級(日常の話題に関する通常の会話)、  
大学卒業でTOEIC700点(国際社会に活躍する人材に求められる語学力)  
といった大まかな目標が設けられた。現状の達成状況は中学で35%、高校  
で30%で大学生ではTOEICの平均が450点程度である。

この結果に対して大きな原因は

- ① 中学・高校の英語教師の能力が低い
- ② 小学・就学前からの英語(外国人)に親しむ事が出来てない
- ③ 四技能(speaking/listening/reading/writing)のバランスのよい指導が  
出来てない

とまとめられるが、子どもたちの保護者のアンケートからは80%の保護者が  
学校で習った英語が「役に立たなかった」と答えている。



(留学生同士のコミュニティを活性化させるコミュニティボード)

そんな日本の英語教育の現状では納得できない保護者の選択肢に実行力のある語学留学がある。

訪問した NZLC 校はニュージーランド政府認定校であり、STM stara ward (南半球語学学校部門最優秀賞)を 2014 年～2016 年の 3 年間連続受賞している。オークランドとウェリントンに校舎を持つニュージーランド最大の語学学校である。



(近年の日本からの留学生受け入れ状況の説明を受ける)

学校内では、13 歳から 17 歳の子ども英語プログラムから、目的や個人レベルの違いで選択できるコースが細かく分けられていて、IELTS の試験の対応をするコース／上級ヨーロッパ検定コース(FCE／CAE)／TOEIC 検定対

応コース／英語教師育成コース／ビジネス英語コースと幅広く目的や個人のスキルに合わせて選択できる。ケンブリッジ英語(英国英語)を中心に幅広く柔軟に世界 25 カ国の生徒に対応している。

授業は「23 時間／週」を基本にしているが、授業時間以外の生徒の生活対応も充実している。ニュージーランドの観光や仕事(就労ビザ有)の PR や、斡旋サポートもしている。また最大のセールスポイントは、学生の普段の生活空間であるホームステイ先の家庭調査も厳格にされていて親元を離れた生徒には心強いサポートである。また、アパートなどに滞在する場合でも母国語(日本語)サポートが充実していて安心サービスが多岐に渡る。

ニュージーランドの3大外貨獲得産業は農産物輸出・インバウンド観光事業・語学留学受け入れである。その語学留学生の約2割が日本からの留学生である。

日本からの海外留学生は2004年83,000人をピークに2015年には54600人にまで減少している。その背景には、「海外で働きたくない」新入社員が増えており、その理由に、「言葉」(78,5%)と「治安」(84,8%)がトップに上げられている。



(学生からの意見を学校運営に反映させることを重要視している)

しかし、実は「治安」に対する不安のかなりの部分は言葉が理解できない為起こることを考えると、結局は英語力をどう伸ばすかが鍵になってくる。

国内では大学受験の為の英語の要素はまだまだ強いが、世界の中で仕事や実務をこなす為のツールとしての英語力強化はさらに求められる。

当日同行していただいた、現地通訳の豊田さんの、「英語を学び、ライセン

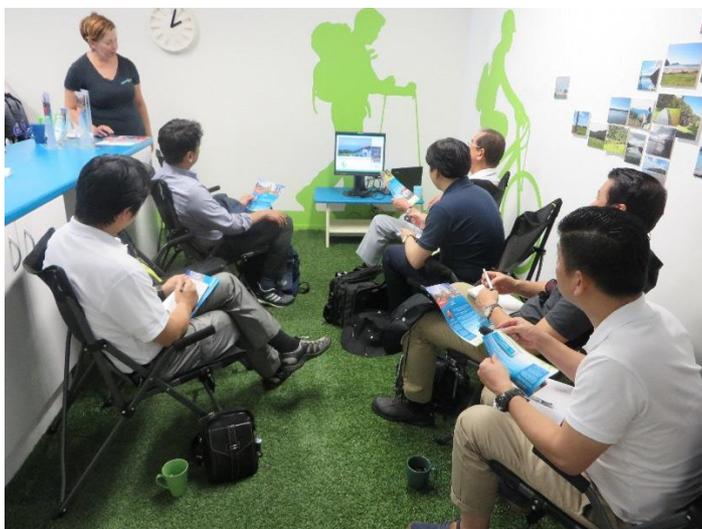
スを取ることが最終目的ではなく、英語をツールとしてどんな仕事や人生を目指していくか、という基本理念を持って日本を飛びたってもらいたい。」とのコメントは、的を得たものであり、日本の教育者も保護者もこの部分に軸足を置く教育に変わるまでは、海外の NZLC のような語学学校の必要性がさらに求められるのではなかろうか。

## ② アドベンチャーキャピタル(自転車政策)

文責 大石豪

《アドベンチャーキャピタル》にて、サイクリングにおける観光政策の視察。会社の設立は2006年だが、2011年に名前を変更し、現在のアドベンチャーキャピタルへ。主な業務としては、自転車の貸し出しがメインだが、他にもキャンプやハイキングのコーディネート等を手掛け、2014年からは、ガイドも行う。又、今年よりオークランドを初めとする主要3都市において、益々のサイクリングガイドを考えているという。

これは、ラグビー・ヨット等の試合等により一度に来る観光客が多い時期がある為、近年市役所でも自転車観光客の誘致政策を考慮している事もあり、今後の官民連携にも繋がって行くのではないだろうか。



(国策として進められている自転車道整備について説明を受ける)

アドベンチャーキャピタルでは、オークランドでのコースに半日コースや数日間かけて行われるコースを設定。

対象者に、

- [クルーズ] 海外からのクルーズ船による観光客をターゲット。年齢層は高いが、サイクリングをしたい客は多い。例) AM7:00 着～ サイクリングによる市内観光等。
- [F・I・T] 個人で来る観光客をターゲット。
- [M・I・C・E] 企業等に訪れる客、学会等に訪れる客をターゲット。
- [エディケーション] 等を置いている。

ただ、ターゲット層となるインバウンドは増えてはいるが、実際には国内からの客が80%を占める現状でもある為これからの展開次第とも言える。

ちなみに、日本人を対象としてマーケティングを行うと、

- 若い男性の客(グループ)は、ガイドを必要としていない。
- 個人旅行や新婚旅行等に訪れるカップルはガイドを必要としていない。
- ツアー等でのガイドを必要とするカップル。
- 一人で来る人、長く自転車に乗っている人。となるらしい。



(しまなみ海道で開催する国際サイクリング大会をセールスする)

ニュージーランドでは、2009年頃から当時のジョン・キー首相により国策として専用自転車道の整備に取り掛かっている。これは、1994年に始めのコース(オタノレールトレイル)154kmの整備に取り掛かったところ、200人の雇用が生まれたことが発端であり、では、コースを3000kmにすれば、何人が雇用出来るようになるのか?といった発想から構想へと繋がった事業でもある。こういったコースが整備される事によって若い人が外(海外等)に行かず働ける場所の確保に繋がる事を望んでいる。尚、全てのコースが完成するには

後 10 年はかかるという。

コースは、大きく 3 種。

○オタノールトレイル … 200 人の雇用を生み出した 154km の初の長距離自転車コース。

○ティンバートレイル … 自転車専用の為に整備されたコース。ただ、アクセスが悪く専用自転車道のグレードが高い割に人気はイマイチ。その為、海外からの客より国内の客向けの需要を考えている。

○ホークスベイトレイル … 平地であり、アップダウンのないコース。気候も穏やかで、風景や食事を楽しむグルメな客へはお勧めである。

国策としてコース整備の予算は、2014 年より国から 200 ミリオンニュージーランド\$(約 160 億円)投資されることになったが、地域の協力が必要でもあった。これらは地元のロータリークラブ等が宣伝プロモートしていた事もあり理解が得られたという。

又、実はサイクルトレイルを整備しようとする中で、当初オークランドは考えになかったが、北と南を整備するに当たって中間にあるオークランドは外す事が叶わず整備を始めた経緯がある。しかしながら、先にも述べたようにラグビーやヨット等による観光客や常に立ち寄るクルーズ船からの観光客に湧くオークランドにおいての自転車観光の目は大きい。何よりこのニュージーランドのサイクルトレイルを走破する事は、45 歳以上に人気があり死ぬまでにやるべき事の一つに入っているという。



(オークランド市街地で自転車専用道の整備状況を聞く)

## 《Q&A》

- ヘルメットの着用状況は？→義務化である。だが、外国人観光客特に中国系が守らない事が多い。
- スポーツサイクルの割合は？→まだ 10%程。
- 保険の状況は？→物損は個人で。人的被害は国費で治療(ACC)。
- レンタルバイクの盗難は？→危惧している。中国では大きなレンタル会社が 3 つあったが盗難により会社が全て潰れた例もある。
- どうやって観光客にお金を落とさせているのか？→カード社会。宅配もある。等々



(ゆとりある自転車専用道)

説明を終えメンバーで街中を少し自転車で走ってみると、なるほど、確かに専用自転車道のピンクレーンの走りやすさは心地良く、自転車専用の信号機も街中に溶け込んでいた。



(レンタサイクルでサイクリングツーリズムを体験)

20年後には主な街中の道路は車でなく自転車が占めているかもしれない。説明してくれたジャッキーさんの言葉が印象的だった。

【1月12日(金)】

③ ワイヘキワイナリー(町おこし・観光政策)

文責 川本健太

ニュージーランド滞在4日目は、観光ワイン農園視察のためワイヘキ島を訪れた。

オークランドからフェリーでおよそ40分の距離にあるワイヘキ島は、ニュージーランドを代表するワインの名産地である。島内には20以上のワイナリーがあるとされており、オークランドから日帰りツアーで訪れる事もできる。ツアーではワインの試飲・購入は勿論のこと、併設されたレストランで食事を楽しむほか、宿泊も可能である。ワイヘキ島はワインの産地として有名なだけでなく、島にはいくつもの美しい海岸が広がり、街にはお洒落なレストラン、アートギャラリーやクラフトショップが軒を連ね、夏にはニュージーランド各地から観光客が訪れる人気の観光地である。我々が乗ったフェリーにも「BRIDAL」と書かれたカードを首から下げた団体があり、通訳の方に聞くと、レストランを貸し切ったウェディングパーティ等もよく行われているとのこと

である。

フェリー乗り場にはワイナリーだけでなく、アートギャラリーやアクティビティなどの観光パンフレットが数多く置かれていた。フェリーを降り、ワイナリーへと向かう。



#### <MUDBRICK VINEYARD & RESTAURANT >

MUDBRICK はニュージーランドを代表するワイナリーである。小高い丘の上にある敷地に足を踏み入ると、綺麗に整備された庭があり、その一角でハーブや野菜などを育てていた。それらの野菜は併設するレストランで食材として使っているそうである。

敷地内の坂を上るとワイン用のブドウ畑が広がっており、スタッフに確認したところ4種類の品種、ピノグリー、メルロー、シャルドネ、カベルネを育てているそうである。